

わたしは何を知りうるか？

(モンテーニュ)

宇宙から見た地球もミロのビーナスも美しい。しかし、地球のような自然と、彫刻のような人工物の美しさは同じなのでしょう。

二酸化炭素を排出しすぎるのは地球環境によくないと言われます。しかし科学者の発言が本当に正しいとどうして言えるのでしょうか。

哲学とは？

このような疑問について考えることが哲学です。「人はなぜ生きるのか」「死とはなにか」「人はなぜ服を着るのか」「美術や音楽をなぜ美しい、快いと感じるのか」「うれしい、悲しい、腹立たしい、ねたましいなどの“感情”はなぜ生まれるのか」「なぜ人を殺してはいけないのか」「なぜ働かなくてはいけないのか」「なぜ年を取ると時間のたつのが速くなるのか」など、すべて、昔から多くの哲学者の頭を悩ませてきた問題です。



さまざまな哲学

哲学もさまざまあります。西洋やインド、日本など、地域ごと、また時代ごとに考え方も違います。自然や芸術の美しさを問題にする「美学」、ひとの行いの善し悪しや生き方を問う「倫理学」など主題による区別もあります。「死」や「生き方」の問題については「神話」や「宗教」も参考になるかもしれません。芸術について考えようとするれば、具体的にどのような美術や音楽、舞踊、映画、写真、コミック、ファッションがあるのか知りたくなります。

広く深く 学ぶ場所

東西の哲学や美学芸術論、倫理学、宗教や神話、芸術などの歴史と現在を学び、研究できるのが専修大学文学部哲学科です。



哲学には興味がある。でもどうやって勉強するんだろう？

「哲学」という科目は高校にはないのではじめはとまどって当然です。専修大学文学部哲学科には三つの新入生向けプログラムがあります。

- ①基礎ゼミ：定員20名前後。大学で学ぶ基礎的ノウハウ（時間割作成法、資料の探し方、レポートの書き方、議論の仕方など）を身につけます。
- ②「哲学の手ほどき」：哲学科9名の先生全員が順番に哲学の考え方をわかりやすく解説する入門講義
- ③「アドバイザー制度」：授業や単位の取り方などについて先輩が丁寧に教えてくれます。



カリキュラムの特徴

基礎から卒論まで：個人的指導	哲学科の学生は全員、一年目に「基礎ゼミ」、二年目から「ゼミ」に所属し、卒業論文まで教員による継続的な個人的指導を受けます。卒業論文は四年間の勉強研究の結果です。
入門から学年ごとに積み上げる専門知識	丁寧な入門講義（哲学などの「概論」、西洋や日本などの「哲学史」「思想史」）を一年生から、二年生からテーマを掘り下げる講義（「文化の哲学」「ことばの哲学」など）、三年生からは各教員の最先端研究成果をお話する「特殊講義」がはじまります。
具体的な文化や人間の理解	美術や音楽、舞台など芸術文化、宗教学や神話学など哲学の周辺にあって人間や世界についての理解を豊かにする分野の授業が幅広く用意されています。
自由に組める時間割	卒業までに必ず履修しなければならない科目（「必修科目」）が少ないため他学科や他学部の科目、教職や司書・学芸員など資格課程の講義を自由にとることができます。

卒業したらどうするんですか？

卒業生は商社、流通、マスコミなどに就職し、哲学科出身だから不利になることはありません。教職や司書、博物館美術館などの学芸員資格も取得可能です。

哲学を深めたい学生は、大学院修士課程（2年間）・博士課程（3年間）に進みます。修士号をとって一般企業に就職するひとも珍しくありません。



◀左から、神崎ゼミ、伊吹ゼミ、大庭ゼミ、船木ゼミ、貴ゼミ

哲学科カリキュラム

個人的指導		哲学の積み上げ		文化や人間の理解	
1年	基礎ゼミ	入門と基礎 哲学の手ほどき、哲学概論、倫理学概論、論理学概論、芸術学概論、現代思想概論、		芸術理解 音楽論、美術論、映画・演劇論、サブカルチャー論、パフォーマンス論、映像文化論、西洋美術思想の歴史	人間理解 神話学、記号・象徴論
2年	ゼミ	西洋哲学史、日本思想史、インド思想史、中国思想史、イスラム思想史	深化：日本の思想、日本の伝統芸能、精神分析学、宗教学、心の哲学、社会哲学、科学哲学、倫理の哲学、ことばの哲学、歴史の哲学、フェミニズム思想、論理の哲学、文化の哲学、現代形而上学入門、差異の哲学、応用倫理		
3年					
4年				最先端 哲学生人間学 特殊講義Ⅰ～Ⅷ	

卒業論文

卒業論文の例：「固有名をめぐる考察——『名指しと必然性』を軸に——」「カントの空間・時間と物自体」「『卒塔婆小町』に見る老女」「なぜ、人は人を殺すのか」「人間とロボットの共存の可能性」「オリンピックの意義」「日本の火葬史」「《アヴィニョンの娘たち》の「不足」」「写真について」「ジャズの発展と西欧機能と声理論」「ミュージアムと国民国家」「グローバリゼーションとアイデンティティ」

在校生の時間割

坂尾千亜喜（哲学生人間学専攻3年）（取材時）



哲学というと初めの頃は「どんなことを語る学問なのか」という戸惑いがありました。しかし、色々な講義を受講していくうちに「哲学はどんなことでも語れる学問なんだ」と思うようになって、自分の中で「色々なことについて挑戦していこう!」という意気込みが生まれるのを感じました。授業科目も興味深いものがたくさんあるので、興味のあることについて勉強していきたい人にとっても、興味のもてそうなものを探していきたい人にとっても、やりがいのある勉強ができる場所だと思います。

	月	火	水	木	金
1年次					
1		[前]教育職員論 [後]特別活動論	[前]英語解読 1a [後]英語解読 1b		
2			基礎ゼミナール	体育演習	[前]英語表現 a [後]英語表現 b
3	[前]ドイツ語初級構造Ⅰ [後]ドイツ語初級構造Ⅱ	中国思想史	[前]教育言論 [後]教育行政論	社会学概論	[前]ドイツ語初級基礎Ⅰ [後]ドイツ語初級基礎Ⅱ
4	倫理学概論	[前]情報処理基礎 [後]情報処理応用			倫理学
5	文学B	哲学	哲学概論		
2年次					
1			[後]哲学生人間学 特殊講義Ⅱ		
2	心の哲学	西洋哲学史 (古代・中世)	法学A	[前]ビジュアル文化論 [後]映画・演劇論	[前]ドイツ語中級演習Ⅰ [後]ドイツ語中級演習Ⅱ
3	[前]健康科学論	[前]ドイツ語中級総合Ⅰ [後]ドイツ語中級総合Ⅱ	ゼミナールⅠ	[前]発達・学習心理学 [後]スクールカウンセリング	[前]教育方法論 [後]教育過程論
4	倫理学概論	[前]神話学 [後]教養特殊講義Ⅶ	西洋哲学史(近代)	精神分析学	ギリシャ語入門
5	法律学	日本の思想	教育法学		
3年次					
1					
2		公民科教育論	[後]教育実習Ⅰ		[前]総合演習 [後]進路指導論
3		音楽論	ゼミナールⅡ	[前]哲学生人間学 特殊講義Ⅰ [後]哲学生人間学 特殊講義Ⅳ	
4		[前]記号・象徴論	[後]哲学生人間学 特殊講義Ⅲ		
5					

教員紹介

専門分野、ゼミの内容、主要著作

学科昇格にともない教員数が7名から9名に増えました

神崎 繁 (古代中世哲学、倫理学)

アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、『弁論術』、スピノザ『エチカ』などをもとに人間の感情について考える。『魂への態度』(岩波書店)、『フーコー』『ニーチェ』(NHK出版)、『プラトンと反-遠近法』(新書館)など。



大庭 健 (倫理学、分析哲学)

自分がいる、とはどーゆーことか? 「自分がいる、とは?」「姿形や好み、考え方が変わっても自分は自分か?」。現代の哲学論文を読み、考える。『いま、働くということ』(ちくま新書)『責任ってなに?』(現代新書)、『所有という神話』(岩波書店)



菊地健三 (近代ドイツ哲学・美学)

カント『純粹理性批判』を読む。『カントと2つの視点——三批判書を中心に』、『性差についてのカントの見解』(翻訳:U.P. ヤウヒ著)(専修大学出版局)、『美は無根拠か』(共著、大明堂)、『ジル・ドゥルーズの試み』(共著、北樹出版)。



船木 亨 (現代フランス哲学)

ドゥルーズ/ガタリ『千のプラトン』を読む。『進化論の5つの謎—いかにして人間になるか』(ちくまプリマー新書)、『デジタルメディア時代の《方法序説》』(ナカニシヤ出版)、『メルロ＝ポンティ入門』(ちくま新書)、『《見ること》の哲学』(世界思想社)など。



金子洋之 (論理学)

言語、コミュニケーション、論理。ことばの働き、とくに自分の考えをことばで他者に伝えられるのはどうしてか、そのメカニズムを探ります。『ダメットにたどりつくまで——反実在論とは何か』(勁草書房)など。



出岡 宏 (日本倫理思想史)

「能」を通して人間を読む。能ということばになりにくいものをことばにする努力を通して、人間と自分自身について考えます。「世阿弥の芸論における価値語」「小林秀雄の『当麻』をめぐって」「つれづれ」という在りかたをめぐって」「『徒然草』における人間の否定的側面」



伊吹克己 (フランス実存哲学)

サルトル『聖ジュネ』を読む。善と悪、子供と大人、異性愛と同性愛、こうした原理的(哲学的)問題に人生の最初から突き当たってしまった「泥棒作家」ジュネという人間を「読む」。「J.-L. ナンシーの共同体論をめぐって」、「アジアという経験」など。



貫 成人 (現象学、舞踊美学、歴史理論)

表象文化論・美学・芸術論にかんする理論を、芸術の歴史と現場に照らし合わせながら検討する。『経験の構造』(勁草書房)、『哲学マップ』『真理の哲学』(ちくま新書)、『図説標準哲学史』(新書館)など。



新任教員 (未定)

